

第 10 回丹波市自治協議会のあり方懇話会（摘録）

開催日時	令和 元 年 11 月 19 日(火)午後2時開会～午後4時 00 分閉会
開催場所	氷上住民センター 大会議室
出席者	【座長】 久隆浩委員 【職務代理】 足立徳行委員 【委員】 大野亮祐委員、西垣伸彌委員、清水明委員、藤本修作委員 田中延重委員、坂根眞一委員、畑田久祐委員、澤村安由里委員 田邊和彦委員、吉見温美委員、荒木伸雄委員 増南文子委員、田中義人委員、吉積明美委員、足立純子委員 【事務局】 まちづくり部長、市民活動課、各支所
欠席者	【委員】 田村庄一委員
傍聴者	2名
次 第	1 開 会 2 座長あいさつ 3 会議の公開・非公開の決定について 4 報 告 第9回会議摘録等について【資料1】【資料2】 5 協 議 委員意見交換 (1)自治協議会のあり方懇話会報告書(素案)について【資料3】 ●第1回自治協議会のあり方懇話会 考え方の整理のための講義録 P1～P12【資料4】 ●自治協議会のあり方懇話会各回概要版 P13～P28【資料5】 ●各項目で検討した協議資料 P29～P38【資料6】 ①自治会と自治協議会のあり方 ・自治会と自治協議会のあり方(組織、活動) ・自治会と自治協議会のあり方(情報共有・意思疎通) ②地域づくり計画のあり方 ・地域づくり計画のあり方 ③行政との連携のあり方 ・事業展開の上での連携体制の構築(交付金等) ・まちづくり指導員、市職員のあり方 ・双方向の情報共有と協働体制の構築 ④行政に影響されない(頼らない)地域経営のあり方

	・自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開 ・総働や多様な人材が参画する機能的な運営 ⑤人材育成のあり方 ・若者や女性の参画を通じた人材育成 ・潜在的な地域の人材の掘り起こし、高齢者の活躍の場づくり 6 今後の予定 7 閉 会
資 料	◆配布資料 【資料1】第9回会議摘録 【資料2】第9回会議概要 【資料3】自治協議会のあり方懇話会報告書(素案) 【資料4】第1回丹波市自治協議会のあり方懇話会 考え方の整理のための講義録 【資料5】自治協議会のあり方懇話会各回概要版(第1～8回) 【資料6】各項目で検討した協議資料 - 自治会と自治協議会のあり方(組織、活動) - 自治会と自治協議会のあり方(情報共有・意思疎通) - 地域づくり計画のあり方 - 事業展開の上での連携体制の構築(交付金等) - まちづくり指導員、市職員のあり方 - 双方向の情報共有と協働体制の構築 - 自主財源の確立、コミュニティビジネスの展開 - 総働や多様な人材が参画する機能的な運営 - 若者や女性の参画を通じた人材育成 - 潜在的な地域の人材の掘り起こし、高齢者の活躍の場づくり

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	1 開 会 2 座長あいさつ 昨年の6月から熱心に議論をいただいた。そろそろまとめの段階にきているので本日はまとめに関して様々なご意見をいただきたい。 それでは、副市長からごあいさつをいただく。
副市長	副市長あいさつ 毎回それぞれ大変お忙し中、出席をいただきありがとうございます。座長からもあったように最終的なまとめにかかっているかと思っています。この間、色々と議論いただいたことをあらためてお礼を申し上げたい。今回は、大体全容の案を示しているが、特に事前に送付した資料の中では 21 ページ以降が一番重要な部分だと思うが、(3)の地域の将来像に相応しい自治協議会のあり方、この辺りを多く書き込んでいる。この懇話会で議論に出ていないようなことや事務局の考え、思いを盛り込んで書き込んでいるので、「こんな議論はあまりしていないのではないか」とか「少し言い過ぎではないか」等色々あると思う。そこは本日皆さまの意見をいただいて最終的に決めていければと思っている。この 21 ページ以降の事前に送った資料を若干修正している部分もある。事前に送付した 27 ページ以降の「事務局体制」、「意思決定」、「情報共有」、「組織のあり方」の部分、それから⑦の「財源」、こういった所を事前に送付したものから更に手を入れたものが黄色い用紙で手元に配布しているもので、事前に送付しておきながらまた修正をしたということで、ややこしくて申し訳ないが、どうか議論をお願いしてあいさつとさせていただきます。
座長	3 会議の公開・非公開の決定について ○公開に決定
事務局	4 報告 【資料1】第9回会議摘録について 【資料2】第9回会議概要について
座長	報告の内容についていかがか。 なければ、続いて協議に入りたい。 本日は先ほどから申し上げているように、報告書の素案について議論をしたかと思っています。副市長のあいさつにあったように、前回議論した部分から、事務局でもしっかり書き込んでくれている部分があるので、その辺り、また意見をいただきたいと思っている。もし本日議論した上で、もう一度開催した方がよいということであれば追加で1回確認のための会議を持つことも今のところ想定している。後ほど、議論の進み方によっては事務局から提案があらうかと思っている。もしお許しをいただけるということであれば事務局と私にお任せいただいて報告書としてまとめさせていただくということもあるが、その辺り議論の後で諮りたいと思っている。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	それでは、事務局に報告書素案についての説明をお願いします。 5 協議 委員意見交換
事務局	(資料説明) 【資料3】自治協議会のあり方懇話会報告書(素案)について 【変更資料3】【参考資料】
座長	いかがか。資料3、変更資料含めて最終的な報告書としてまとめていくに際して、何か意見や質問があれば出してほしい。いかがか。 あるいは、全体の構成でいうと以前は好事例が報告書の中にあったが、参考資料の方に回したという変更もあるので、その辺りを含めて議論をしてほしいと思うがいかがか。 本日、欠席の委員からご意見をいただいているので事務局から紹介をお願いしたい。
事務局	欠席の委員から本日の会議に当たっての意見をいただいているので紹介する。 15 ページ「4 他の類似の自治協議会制度」について、雲南市、宝塚市、朝来市、三田市の自治協議会制度では、4市とも「概ね小学校区」に組織されているとある。それぞれ参考になるが、市域の現状が比較的似ている朝来市に学びたいと思う。縁があって、11 月 14 日に朝来市の「与布土地域自治協議会」を訪問し、情報交換を行い、百笑茶屋「喜古里」で食事をした。会長、副会長、事務局長から地域の現状や課題、今後の取り組み、方向性を説明いただき、与布土地域の皆さんの熱意に感銘を受けた。朝来市も平成 19 年に全市各校区に自治協議会が設立され、それまでの市と自治会の間に自治協議会が入り、双方向の調整の役割を果たすようになったと聞いた。丹波市もその体制がよいと思う。 20 ページの「②地域の具体的な将来像」について、記述の内容はそうなっていると思うが、前ページの「①人口、年齢構成等の将来予測」の厳しい記述に対して、将来像は本当に実現できるのかと思う内容だ。現実と目標の差が大きく、まさに「絵に描いた餅」のような印象がある。大切なのは、実現可能な将来像(夢)を基本とし、その将来像に到達するためのプロセス、つまり、今後の行政、自治協議会や市民の果たすべき役割を分かりやすく示すことが大切だと思う。 21 ページ「(3)地域の将来像に相応しい自治協議会のあり方」について、「一定の都市機能を市の中心部に集約し、」とあるが、コンパクトシティと紙一重の危険を感じる。今もなお周辺地域から中心部への人口移動が続いており、今後さらに人口減少や高齢化が進み、担い手が不足する周辺地域の自治協議会にとって、住み慣れた地域を守ることは至難である。周辺地域への思いやりや支援が必要だと思う。朝来市の与布土地域自治協議会長から、最近オープンした市民プラザへの評価をいただいたが、市民プラザがどのような役割を果たすのかも

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	期待したいところだ。 23 ページ以降の「行政と自治協議会の関係」及び「自治会と自治協議会の関係」について、前回の職務代理者の発言のとおり、色々な課題はあると思うが、自治協議会の会長が自治会長会の理事に就任する方向に統一するのがよいと思う。自治基本条例もその方向であると解釈している。市は現実には校区単位の地域づくりを目指しており、条例にはその担い手となる自治会や自治協議会のあり方が明記されていると思う。各校区の自治会長会と自治協議会との関係整理が必要なのところもあると思うが、既に氷上町や市島町など丹波市自治会長会の理事の約半数は、自治振興会や自治協議会の会長が就任している。当然、その自治協議会の会長は、自治会長への情報提供、地域づくりの推進、組織運営、自治会への助言や支援の重要な任務を果たしている。市の審議会の委員なども、既に自治協議会の会長(自治会長会の理事)も就任している。素案の記述にはその方向が示されてはいるが、もう少し明確に記述してもよいのではないかと思う。 以上の意見をいただいている。 もう少し踏み込んだ記述をした方がよいのではないかということもあったが、これから更に市と地域、地域の中でそれぞれの特徴に合わせて詰めてほしいということもあるので、ここに書き込んでしまうと独自性を侵しかねないということもあるかと思って、一つ手前で留めているということもあろうかと思う。 いかがか。 欠席委員から意見をもらっているが、他の委員でこの報告書素案に関してもう少しこの辺り書き込んでほしい等あれば出してほしい。
委員	先ほどの雲南市の小規模多機能自治について一つの枠を作って「こういうものだ」ということを示されている。丹波市は小規模多機能自治推進ネットワーク会議に参加しており、全国で 250 の自治体が会員になっているが、これは丹波市が小規模多機能自治を目指すという意味表示なのかということを確認させていただきたい。
事務局	参加した当初の状況、きっかけは、小規模多機能自治とはどういうものか、まずは学ぶことから始めるということだった。現時点においても、情報収集のために会員として登録し県内における小規模多機能自治ネットワーク会議の先進地である朝来市とともに学習する機会に参加している状況です。丹波市が小規模多機能自治を目指す公表している状況ではないが、懇話会で協議いただいた今後の地域のあり方を考えたときには、小規模多機能自治の機能のある地域が将来の自分たちの暮らしを守るためにはより必要な仕組み、目指す方向の一つかと考えている。
座長	よろしいか。 今回の報告書もどうしたら小規模多機能自治にもっていけるかというところで記述がされているのではないかと思う。いかがか。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
副市長	今の小規模多機能自治だが、小規模多機能自治ネットワークに入ってまず学んでいこうということだ。小規模多機能自治の方法がよいのではないかとってはいるが、明確に丹波市が小規模多機能自治を目指すということを公式に表明しているというのは恐らくないのではないかとっている。そんな方法が望ましいということ色々なところで言ってきたはいるが、言うとなればこの懇話会での報告をもって、懇話会として「小規模多機能自治を目指すことがよいのではないか」という報告書をもって思っている。それからもう一つはこれと並行して進めている 20 年後の将来を明らかにしようとしている「まちづくりビジョン」が検討されていたが、そちらの方でも一定都市の機能を真ん中に集積する。そして住み慣れたところで市民の皆さんには住み続けていただく。それを可能にするためには地域の自治機能がきっちり高まって、地域の課題は地域で解決していくというような自治の力が備わってくることによって住み慣れた所に住み続けることが可能ということで、こちらの方でも小規模多機能自治を目指すという方向が出つつあるが、そういう方向ではあるが、まだ、はっきりと公式には表明していないという段階ではないかと思っている。懇話会がはっきりそういう方向を打ち出すということは一つの契機かと思う。
座長	よろしいか。他いかがか。 「修正」でいただいた資料 22 ページのところ、「なお、懇話会の議論の中では、『自治会は氏子や檀家と表裏一体でつくられてきたところが多く、こうしたものはいくら担い手が少なくなっても消滅することはない、統合型にはならないのではないか』という意見もあった。」とこの通りだが、これが小規模多機能自治ということではないが、旧村というところから発生してきた地域コミュニティはこれから検討してもらえるとありがたい。というのは伝統的に村を守るための維持管理をしていく活動というのがまだまだたくさんあるかと思う。一方でその付近に引っ越しをされてきた方、いわゆる新住民の方からいうと、その村を守っていく活動というのは少し距離がある。こういう新旧の住民が混じり合っている地域というのは旧住民が主に担っていく活動と、地域課題を解決するために新旧関わらず皆で取り組む活動とこのあたり大きく2つのタイプの活動があるかと思うが、今のところ渾然一体となっているところがあるのではないか。ここをうまく整理をしていただくことによって、地域課題を解決するための自治協議会の役割がよりはっきりしてくるということも考えられるし、そういう地域課題解決型の活動の中にこういう村を維持管理する活動をそこまで統合するのがよいのか、あるいは、村を維持管理する活動は従来のような形でしっかりと担っていただいて、地域課題を解決するための自治協議会の活動と少し仕分けをしていただく方法もある。ここも地域の中で考えていただければと思っている。ここはこういう課題があるということでの記述に留めておいてよいと思う。ここはこれから時間をかけてうまく地域に相応しいやり方を考えていただけたらと思っている。統合型というのはそういう意味では全ての活動をまとめていくというのではなくて、統合型の中にも仕分けをして担い手をうまく役割分担しながら、まとまる部分を統合していくという統合型でもあるので、統合型イコール全ての活動をまとめるということではない。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	いかがか。よろしいか。 1点、図にして分かりやすくなったと思うのは、21 ページのところで統合型、補完型、支援型というのを事務局で図にいただいている。3つの形は様々あると思うが、3つに共通しているのは、この斜め線の入った自治協議会が従来あった様々な組織、団体を繋いでいく役割という部分が共通している。その繋ぎ方が3パターンに分かれるということで、改めて認識できたのではないかと思うので、この図を参考にしながら地域の中でたくさんある地域の団体をどのような形で自治協議会がまとめていけるのか、繋いでいけるのかということを考えていただけたら幸いと思っている。 いかがか。 では、この素案を基にまとめるということでよいか。異議がないようであればそうさせていただきたい。 今後、報告書に基づいて、地域の自治のあり方を皆さんと一緒により充実したものにしていきたいと思っているので、今後に向けて意見交換なんかもできたらと思うし、先ほど欠席委員の指摘もあったように、冒頭に市民プラザの案内もあったが、市民プラザの活用の仕方でのどのような形で充実できるかという観点でもよいし、様々な観点で報告書の展開の仕方、あるいは市役所との連携のあり方について何かご意見等々あれば是非とも遠慮なく出してほしい。 報告書の素案を読んで今までの会議の振り返りにもなったし、ここまでまとめるのは本当に大変だったろうなということを改めて感じていて皆さま本当にご苦労様でした。 先ほどの座長の話で、統合型というのを何かの文章で読んだ時に、これ美談ではないかと正直思っていたが、先ほど座長から全てを統合するのではなくこれからそれぞれの地域で相談しながら考えていくことを言われたのでちょっと安心している。一つ聞きたいことはこの会議に参加している方は協議を通して理解されていると思うが、私が自治協議会の中で仕事をしている中で、自治会長がこの内容を、自治会と自治協議会との関係を明確にされているが自治会長がどのようにしてこのことを知る術があるのだろうかと思っている。もちろんこの報告書が出るということは、話をされることになるのだろうが展開の方法はどのように考えているのか。自治会長に対してのアプローチの仕方というのを教えてほしい。大変気になっているところで、私の地域の中で「自治会長は当番や」と言う方がいた。神楽の場合は必ず2年で交代する。その時に引き継ぎもなく、「いついつこの事業があって、月2回役員会があって、その時に配布物を配って、お当番さんなんや」というような意識を持っているので、その「当番に対して文句を言うのはどうなんや」と言った方が実際にあって、「その考え方はどうやるな」と会長と話をしたこともあった。自治会長自体が当番的な考えを持っている方が非常に多いということを私は一番感じたことだ。そういう意味でも「自治会は自治協議会の中核として関わり、コミュニティの代表として組織運営の一端を担うことが期待されている。」という文章があるというところの意識をどのように自治会長に対して、それも自治協議会の仕事だと言われてしまうのかもしれないが、その辺りの考え方を教えていただきたい。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	恐らく神楽地区だけではなくてそういう意識を持っておられる自治会長は複数いるのではないかと思います。少し言い過ぎかもしれないが決まったこと、言われたことをする当番として回していくというのが自治会長の役割だと思われる方がいるということで、そうではなくて、様々な地域の声をまとめたり、地域で起きている課題を集約しながら解決に向けての活動を考え展開していくということが本来の仕事ではないかということで、その思いが異なった自治会長と自治協議会を運営していかないといけないということで、その辺り地域自治のあり方の中での自治会長、あるいは自治協議会の役割を説明する機会もある方がよいのかなと思う。せっかくこの報告書ができるので周知を含んで、そのような期待を今後に向けてどう考えているのかという質問かと思う。
事務局	今いただいた内容については、自治会長会という組織があるので自治会長会の理事に繋いで、まずは交流ということで自治協議会の皆さんにも一緒に話をする機会を持つことが市の役割なので、今後、調整・相談をさせていただきたいと思っている。
座長	ぜひとも充実した機会づくりをしてほしいと思う。今後の自治協議会のあり方を検討していただいて今回報告書を出させていただいた訳ですから、自治会長だけでなく、より多くの市民の方への周知を考えていただきたい。
副市長	自治協議会のあり方を協議いただいて、今回考え方を一定まとめているが、その自治協議会のあり方、考え方をまとめることイコールその中核的な団体である自治会のことも実はこの中に書き込んでいる。要するに自治協議会の中における自治会の役割や自治協議会と自治会との関係性とか、あるいは行政と自治会、行政と自治協議会の役割がこの中に書き込まれていて、実は自治協議会のあり方の報告書でありつつ自治会のことまで言及している。自治会のあり方についてかなり言及しているが、丹波市自治会長会の会長も出席いただいているが、直接自治会長会の方に「こういうようなまとめ方をしているが問題ないか」というようなことは自治会長会の方へ何かこの素案を見ていただいて意見をもらっているという手続きは踏んでいなくて、懇話会としての報告書という形である。懇話会のメンバーの中には自治協議会の会長がいて、自治協議会の会長は当然その中心的なメンバーであり、それぞれ地域ごとに特色はあるだろうが、自治会のあり方についてもよくご存じという観点から意見をいただいた上でまとめさせていただいたということで、一定の地域の実情を踏まえて自治協議会のあり方と自治会のあり方は説明をしたつもりではある。それでも自治会長会にきっちり「こういう素案で懇話会としてはまとめつつあるけれども何か最終的に意見はないか」という問いかけの手続きを踏んだ方がよいということであれば、一度自治会長会に投げてみてもいいのかとも思うし、その辺りいかがか。
座長	先ほどの委員はそこまでは言われてはいなくて、単位自治会長は地域自治の中核の重要な役割を担っている方である。しかし、全ての方がそういうような意識

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	ではなくて、当番制で色々やらなければいけないことを粛々とやっていって次の方に渡すという意識の方がおられるので、「いや違うよ」と、自治会長だけではなくて一人ひとりの住民がもっと積極的に地域課題を解決するために動いていくというのがこの自治協議会の動き方ということをここに提示しているので、いわゆる周知徹底をお願いしたいということである。自治会長に限らずより多くの住民の方々に地域自治の担い手として関わりをしっかりと考えていただけるようにその機会をより充実してほしいということと認識したので、その点よろしく願いたい。 今の意見に対してであるが、当然行政側からすると市民に対して色々なことを説明していかないといけないと思うが、それには膨大な事務量と時間を費やすことになると思う。これからは住民の方からリサーチしてくる姿勢、自治会や自治協議会がどちらを向いているのかというのをいちいち説明してもらうという形ではなく自治協議会のあり方懇話会を出して方向転換していかないと多分変わっていかないと思う。今、市長に対して総合計画の答申をしてきたが、答申に対する市民の意見をいただくというパブリックコメントを支所とかホームページで募集したが、悲しいかな1件あっただけだった。行政は最大限のやり方で住民に対して意見を求めようとするが、住民の方から求めていくという姿勢がまだまだで意見が出ないのか、総合計画の内容がすばらしかったからその通りにやってもらったらよいという意見かどちらなのか。多分この中にも見られた方はあると思うが、地域自治の自治協議会の中の自治会の住民の責務というのは、大変膨大な量のやるべきことが書いてある。何でこんなことまで私たちの責任としてしないといけないのかというのは当然あって当たり前のだろうが。その辺りはしっかりと考えていかないと、自治協議会のあり方懇話会で色んな方向付けをしても絵に描いた餅になってしまう。私が総合計画に携わってきたの思いである。
座長	ちょっと話が膨らんでしまうかもしれないが、尼崎市取材していて、今年から地域自治の仕組をより充実させようという市長の思いがあって、かなり市役所の組織も変えながら進めている。その中の一つの目玉がシチズンシップというが、市民の公共心、公共性を高めていくという形にもっていくことで、生涯学習の中にも講座を取り入れたりしようとしている。先ほど委員が言われたように、地域の問題に対して当事者意識を持って住民自ら取り組んでいこうとする市民を増やしていかない限り、市が何かやろうとしてもうまくいかない。人を育てていくということが基本にないといけないということでの尼崎市の取り組みである。かなり生涯学習の内容を地域自治で見直す内容に充実させていこうという取り組みが始まっている。これは実際やっていたことだと思う。小学校には児童会があり中学校・高校には生徒会がある。小さい時に生徒会や児童会の役員になって自ら学校の問題を解決していこうという思いの子どもはどれくらいいたのだろうかと考えると、小さい頃からずっと人任せだった人たちの方が多かったのではないかと。「私も取り組むよ」という方は小さい頃からお年を召した方もずっと同じ方がやってこられたのではないかと考えると、もっともっと当事者意識を持って自分たちの周りで起こっていることを自分たちで良くしていこうという方を増やして

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	いかないといけないなと思っている。そういうことも踏まえて組織のあり方は検討したが、一方でこれからは当事者意識を持つ方を増やしていくような取り組みをぜひとも丹波市でもしていったらいいと思うし、そのために様々な取り組みをしていただければありがたいと思っている。逆に言うと任せてしまっても暮らせる社会にしているところというのが問題であって、最近自治会に入らない方も増えている。そういう方に自治会の加入を話しても「うち、困っていません」と言う。確かに困ってはいないだろう。日常生活にも困ってはいないと思うが災害時や高齢になって誰かの世話が必要になった時にはやはり支えというものが重要になってくる。しかし今の世の中というのは日常生活を送る中において人任せにしまっても問題なく暮らせてしまうという世の中になってしまっているのかもしれない。どう当事者意識を持ってもらえるのかということも考えていかなければいけない。 この前、大阪府河内長野市で障害児親の会の60歳代の元会長と話をする機会があり、「私が若い頃は市役所が障害児に対して何もしてくれなかった。手厚いサービスを提供してくれなかった。だから自分たち親が手を組んでやっていかないといけないので障害児親の会を立ち上げた。ところが、最近は障害児を持つ親に、「親の会に入らないか」と声をかけても「行政がサービスを提供してくれるので、あえて親の会に入って役を担いしんどい思いをする必要はない。間に合っています。」と言われたということだった。それは一つの典型的な話で、非常に難しいところで、行政が色んなことをするようになればなるほど自分たちで努力をしなくても済むようになってしまうところがあって、行政サービスが充実するのはとても良いことだが、一方でその裏返しとして当事者の努力というものをしなくて済むようになっていところがあると考えると、この辺りのバランスをどう取っていくのかというのは非常に難しい問題だが考えておかないといけない問題・課題だと思った。地域の中でも同じことが言えると思う。中心で一生懸命やればやるほどそれを受け身でサービスの的なものと捉えられる方にとってはしんどいことはいない。どうバランスをとっていくか重要な問題ではないかと思う。
委員	自治協議会のあり方懇話会の結論と言うか、議論かと思うが先ほど副市長が言われたように小規模多機能自治そのものは丹波市としてもその方向を目指すというはっきりした表現はないという中で、あり方懇話会の自分たちの地域のことは自分たちで自ら考えて決定し実践していくという組織というのがそれを目指している組織だという理解をしているが、自治協議会そのものが、そういうものを目指すべきだという結論めいたものをやはり、きちんとこのあり方懇話会の結論として出すべきではないかと私自身は思っている。その中で色々課題解決をしていくために様々な形態の自治協議会があるが、将来そこを目指す中での自治協議会のあり方を市内にアピールすることがこの懇話会の目的ではないだろうか。
座長	いかがか。 先ほどの委員の意見としては方向性として明確に文章としても入れた方がよいのではないかという意見だがいかがか。そこまで踏み込まなくてもよいという意見か。 よろしいか。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	ないようであれば最終的に私と事務局の方で預からせていただいて、「小規模多機能自治を目指しその一つの重要な役割として自治協議会に期待する」という文言を入れるということによいか。 それでは私と事務局に任せていただきその部分をより充実した書き込みをさせていただければと思う。 自治協議会のあり方懇話会の報告書、素案が送られてきて読ませていただいた。前山自治振興会は完璧な自治振興会の業務運営はできていないと思っているので、ここに書いてある課題は私どもの自治振興会に置き換えて考えてみると、それは共通した課題なのだと感じる。私もあり方懇話会の委員として出席した会議のまとめである。私ども自治振興会は理事として全自治会長が入っている所以素案というのはこれが絶対というものではないとは言いつつ方向性はこういう方向に動いていくということで、あり方懇話会の議論の状況や素案に出ている方向性、これを機会に素案についての情報提供をしていきたいと思っている。 組織について、補完型、統合型、支援型とあるが、事案によっては補完型であるし、支援型でもある。ゆくゆく目指すところは私個人では統合型の方向かと思っている。
座長	ご指摘のように、皆さまと一緒に1年半議論した中で、あり方懇話会は将来こういう方向に進んでいけばよいのではないかとことを統一していただいたので、これを一つの手がかりとしてそれぞれの地域がどういう状況であるのか、事情を考えていただいて、どういう形で次のステップへ進んで行くかという指針ガイドラインとして今後使ってほしいと期待をしている。今までこういう共有する機会というのをもち得なかったので、この報告書を手がかりに共有した手がかりとして様々に使ってもらえればと思っている。3つの形態のどの状況なのか、あるいは委員が言われるように、これは補完型でやっているし、こちらは支援型でやっているという形で整理ができるとより分かりやすくなっていくのではないかと思いますので、そういう形で様々な場面で使っていただければと思っている。
委員	春日地域はこれまで2回、自治会長会と自治協議会それぞれの会長と事務局が集まって、指導員にも入ってもらい協議なり様々な意見交換を行ってきた。その時にこの自治協議会のあり方懇話会の進捗状況を伝えている。また今年の12月に第3回を開きたいと指導員と相談をしている。長期間、様々な良い意見が出て感心をしている。これをまとめた状況で話をしていきたいと思っている。 それから23ページに行政と自治協議会の関係が載っているが、今まで市長と自治協議会長との話し合いの場が一度もない。自治会長会と市長との話し合いは年1回あると聞いている。行政と自治協議会の関係というところを読んでいると自治協議会と市長との話し合いの機会があってもよいのではないかと思いますので検討してほしい。
座長	ぜひとも機会を作ってほしいと思う。 実は宝塚市の協働のまちづくり促進委員会を月1回続けてやっているが、そ

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	の中で、先ほどの委員と同じ話があるまちづくり協議会の会長から出て、少し内容は違うが「行政からの情報が自治会長には届いているが、同じ情報がまちづくり協議会の方へは届いていない」という話で、これはおかしいのではないかということ言われた。地域の会合の中で自治会長が市からこんな情報が来ているという話になった時にまちづくり協議会の会長は「うち知らんで」という話になった。それもおかしいということになった。そこで、自治会長に届く情報は同時並行で自治協議会にも出していただきたいということで、市も「今後は注意をしながらやっています」ということになった。そういう意味では情報の伝達、あるいは情報収集の仕方、行政と自治協議会との関係、あらためて色々考えていただくことになったのではないかと思う。
委員	丹波市民になって 26 年になるが、最初の4年はK町に住んでいた。今はH町に住んでいる。今のコミュニティはすごく住みやすいと感じている。K町とH町では何が違うのかと考えたときに、H町は適度な帰属意識と適度な連帯感が大変居心地の良い適度な状況なのだと感じる。なぜ適度な帰属意識、適度な連帯感を持つことができているのかというと、今住んでいるのは生郷自治振興会の横田自治会の1住民だが、横田自治会の中の任意のコミュニティグループが活発に活動していて、クリスマスのイルミネーションを病院の前の公園にしたりとか、自分たちで蕎麦を栽培し打って食べたり、住民が適度に楽しんでいるのを自治会も認めてくれていて夏祭りで出店させてくれたりする。前の自治会に比べて、今の自分はこの自治会の住民だという帰属意識が持てている。しかし、縛りはきつくない。なぜそういうふうに感じる事ができているのか。27 ページにもあるがSNSとかラインで「こういう行事をしますよ。出られる人は出てください。」という感じで、出てもいいし出なくても「出られないのでごめんなさい」で済む。そういう適度な帰属意識、適度な連帯感を住民が持てる仕組み、仕掛けをすることによって当事者意識の高い住民を育てることができる。また、そういう任意のグループをうまく使って、自治会や自治協議会でそういう住民を作りやすい土壌を作ることが自治協議会と自治会の発展に大きな影響があると感じている。
座長	先ほどの意見を聞いて、それぞれの地域でうまく受け取っていただければと思う。よく地域活動と少し距離を置いている方と話をする、先ほどの意見のように、「自分のやりたいことではないことまでたくさんやらされてしまう。それなら最初から踏み込まず距離を置いた方がよいのではないか」という意見がある。自分の興味関心のあるところ、自分のペースでできるような部分をより増やすことによって、もっともっとたくさんの人が関わって、その中で「もう少し関わってもよいな」という人が増えてくるのではないかと思うので、それぞれの地域でも工夫をお願いできたらと思う。これも情報提供だが、和泉市のある自治会長が「高齢化に伴って自治会から脱退するという方がどんどん出てきている」と言われた。高齢で役員を担えないということでこれを契機に辞めたいというのだ。一人ならまだしも友達を誘い合わせてごっそり抜けてしまう。聞くと自治会の役員になったら大変だという思いがあるということだった。一方他地域の自治会の方は、「私も役員をやるまではそう思っていたけれども、やってみたらそんなに大変だということも

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	では仕事がないのではないかと」言われた。一年間にどれだけの会議があつて、どのような形で参加いただいたらよいのかという情報を全ての住民が共有できたら、「これくらいだったらできそうだ」ということになるのではないかと。役員になった時の負担がどれくらいあるかということが実感できないので不安感とか想像で「何だか大変そうだ」という形で距離を置いている方がまだまだ多いのではないかと。という話になって、そういう意味では年間の行事と役員の関わり方、どのくらいの負担をお願いするのかということが事前に共有できるような仕掛けがあつてもよいのではないかと感じた。さらに言えば、先ほどの脱退したいという方が増えているところの自治会長は随分改善されて楽な方向へ持っていっている。というのは班長になって「どうしても出られない時は休んでもらって構わない」「自分が出られるペースで出てきてもらったらよい」というように言われている自治会長である。それにも関わらず、自分の都合に合わせて出て来てもらったらよいという情報がうまく伝わっていない。そこで勝手に想像してしまっているということがある。負担感を減らす一つの方法として、班長や自治会の役員になった時にどれくらいの負担があるのかということ共有しておくということが重要ではないかなと思つた。 他、いかがか。 先ほどの委員の話のように、今後どのような形で地域活動を担っていけばより多くの方に参加してもらえるようになるのかという意見も踏まえていかがか。
委員	中間監査ということで、自治協議会の事業が十分進んでいるかという確認などで各地域を回った中で聞いたことだ。先ほど言われたように地域を見ていると若い人がいない訳ではないが、若い人が自治協議会の活動に参加できる仕組みというのはなかなかやりにくいという話があつた。その中で若者は若者でやっているが、「元気な高齢者が動いてくれたら地域が活発になるのではないかと」という話を聞いた。介護が必要な高齢者に「動いてくれ」とは言えないが、元気な高齢者がたくさんいるので、その方々がどう動くかということ今後自治協議会の中で考えていく必要があるのではないかと。「若い人が、若い人が」「女性が、女性が」と言うが、これまでの慣習の中で動いてきた事実がないのであれば、今いる元気な高齢者を自治協議会の方へ向いてもらうようにすることも一つだという意見が出て確かにそうだと思うことがあつた。役員ばかりがしんどい思いをしていて役割分担というということがなくて、「わしら役員やないさかいそんなとこ行ってせんでもよい」という感覚を持っていて「役が済んださかい自治協議会と関係ない」という方が多いことに注目すべきではないかと議論された経過があつたので参考になればと思う。
座長	先ほどの意見を考えると、様々な入口があれば「こういう方はこういう所から活動に関わっていただける」ということになっていくと思う。そういう意味では元気な高齢者にどのような形で呼びかけて一翼を担ってもらえるのか考えていただければと思うし、最近地域の方と話しているのは年金の支給年齢が上がったり、支給額が減っていく中で働かざるを得ないということで、なかなか地域活動に手が回らないと聞くが、そういう時にコミュニティビジネス、地域のサービスを地域に有償

会議摘録	
発言者	発言の要旨
委員	提供することによって稼ぐビジネスをしていく。そうすると、高齢になってリタイアした人たちも地域のビジネスツール、担い手として活躍ができるかもしれないということを考えてもよいのではないかと思う。ビジネスといってもそう簡単にいかないということもあるが、例えば、今、全国チェーンの配食サービスを利用されている方がおられると思うが、これを地域で担っていくと一定のビジネスになるのではないかということも考えられる。高齢になって様々なサービスを市内の外部業者から受けているところを一部でも地域が担えないだろうかというようなアイデアを考えていただくといくつかのパターンが出てくると思う。地域活動をしている学校の先生のOB・OGが自分の教職の経験を活かして社会貢献をしたいということでNPOを立ち上げている方もかなり増えてきている。教員だけでなく、現役の時のキャリア・経験をうまく使いながら社会貢献したり、地域貢献したいという方もいる。餅は餅屋でそういうスキルやノウハウを持った方がたくさん集落の中にいると思うので、スキルの高い方をアソートしてやっていけば生き生きと活動ができるのではないかと思うので考えてほしいと思う。懇話会でも出てきているし報告書にも入っているが会計業務は本当に大変だが、現役世代の時に経理の担当だったとかそういう技術を持った方が地域の中には必ずいるはずで、その方は会計業務に専念していただいて他の行事の手伝いには借り出さない。「じゃあ会計業務だけに専念していただけますか」という形で勧めたら、今までのように色々なことに関わってもらおうというやり方ではなく、自分のやれること、やりたいことでうまく役を当てはめていくというやり方を考えていけば、委員が言われたように、自分が持っている能力を活かそうという形で1人、2人でも地域の方にも関わってくれるのではないかと期待している。そのあたりでうまくやっている地域とかあるだろうか。現役の時の機能をうまく使って地域活動のこの部分を担ってくれている方がいるという地域あるだろうか。
	いかがか。 先日、箕面市のある地域で話をした。運動会の駐車場の整理をしてくれている方が、見事に車をさばかれた。その人が元警察官だったということで、現役の時のそれぞれのノウハウを持っているので、そこをうまく引き出しながら依頼をすれば色々なことができるのではないかと考えている。
	今の話に関連して、15年前にNPO法人神楽の里という地域づくり事業が立ち上がった時に私は会計を持たされた。男性ばかりの役員の中で女性は一人だった。それは私が現役の時に金融機関に勤めていたという理由で頼まれたという経緯がある。 青垣地域では、現在コミュニティスクールをしており、小学校や中学校で子どもたちが使ったことのないミシンやノコギリ等を使う体験授業があり、学校がボランティアを探しているということがあった。コミュニティセンターに居ると「わし、文章を書いたり人前で話したりするのは苦手やけど、ちょこちょこした直し物なんかは得意なんや」という人が来られます。「こんなボランティアがあるけどどうや」と声をかけると、その人が元大工を2人連れて中学校へ行ってくれたということがあった。そういう時に常にアンテナを張っておくのは大事だという印象を持った。 それから、認めてもらえている感覚が大事だと感じる。百歳体操を自治会でや

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	っており、毎週毎週公民館の鍵を開けて椅子を出してそこに地域の方が 15、6 名集まって百歳体操をする。その中でいつも来てくれる方が「私ら自分のために使う時間が無いね」と言われた。地域のためばかりに使って自分のために使う時間が無いということで、それが積み重なっていくと認められていないような自分はこれをやっていてよいのだろうかという虚無感のような感覚が現れるのではないかと感じた。そういう時に地域の方や自治会の役員が「あんた世話になってありがとう」とちょっとした一言、地域の中での繋がり、地域の方が携わっていたりボランティアで頑張っている方に「いつもありがとう」という言葉のかけ合いが大事だなと最近感じている。 地域の中での社会的位置づけというのがとても重要ではないかという意見だと思う。そういう意味ではこれまでから情報提供してもらっている山南地域の「だんない」であるが、認知症になってもちゃんと社会的、地域的な役割を担えるというような試みかと意識をして聞かせていただいているので、そういう意味ではどういう状態になっても全ての方が地域の中での役割が担えるようなそんな地域がどんどんできればありがたいなと思っている。
委員	地域コミュニティ活動推進員の立場で言うと、今まで懇話会に出て大変参考になった。各自治協議会によって課題は違うと思うが、以前には自己評価チェックリストを出したこともある。この会議の中で行政自身が考えること、自治協議会が考えること、今後一緒に考えていかなければならないことがあると思うが、自分自身が所属している自治協議会の立場に立つと、これを一度自分の頭の中で整理をしてみないとできないと思っている。報告書を読んだだけでは次の行動の一步が出にくい。次の行動に移るための何かのきっかけが必要ではないか。自分の頭の中を整理することが必要だとこれまでを振り返って今考えているところだ。
座長	この懇話会の一つの目標は報告書、提言をまとめることであるが、今後、このような情報交換の機会や、我々が提言した内容がより一步でも二歩でも進められるような、評価ができるような延長線も欲しいと私は個人的にも思っている。そういう機会ができたなら、また集まってもらい、それぞれの地域の取り組みなども情報交換の中から共有できる部分があるのではないかと期待している。ここでも紹介した宝塚市は、まちづくり協議会の協働まちづくり促進会が月1回定例で様々な協議をしているので丹波市でもより充実させてほしい。 先ほどの委員の話を受けて言うと、宝塚市はまちづくりのガイドラインとなるガイドブックを作っている。この報告書の内容をもう少し噛み砕いた内容でアピールするような物を作っているし、今はまちづくり計画を見直すための見直し方のガイドブックも用意している。この報告書は報告書の体裁をとっているが理論的にも少しハードルが高い書き物になっているのでもう少し噛み砕いた解説書、リーフレットのようなものを作っていければと思っている。 他いかがか。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
副市長	今、座長から色々と示唆をいただいた。読み物としては結構ハードルが高いのかなと思うので、今回報告書としてまとまれば、もう少し読みやすいガイドラインという形になるか分からないがそういう物も併せて作っていきたいと思っている。また、来年度の予算を組んでいく、新規事業を組んでいく中で一つ検討していることとして、今回まとめてもらったものを25の自治協議会でよく読み込んでいただき、それぞれの自治協議会であり方懇話会の提言を踏まえて自治協議会のどこを見直していくのかという作業をしてもらいたい。例えば、自分たちの組織として役員構成は今のままでよいのか。もう少し若い人や女性を入れるためにはどこをどう見直していったらよいのか。あるいは事務局体制はこれでよいのか。これから自治協議会として大きな資産を持ちビジネスをやっていく上で会計は複式簿記に転換していくべきではないのか。今、単式簿記のところは複式簿記に変えていくかどうか。あるいは色んな事業をやりすぎていて少し事業が多くて楽しさがなかなか持てないというところは棚卸しをきっちりやっていく。その時にどんな基準で止めるか続けるかを決めるのか。新しい事業を考える基準を考えてみる。そのような色々な見直しができる。その見直しを自分たちですていくに当たって報告書を使いそこに専門的なアドバイザー等に入ってもらって色々な指導助言の下で見直しをしていく。そういうような事業を考えてはどうかと考えているところだ。今出てきたガイドライン的なもの、それぞれの自治協議会を見直すきっかけとなるようなアドバイザーの派遣、そういったようなこともこれから考えていきたいと思っている。
座長	これからも市からの様々な支援をと期待を改めて申し添えたい。 昨年度は大阪府の河内長野市で、まちづくり協議会の交流会の女性役員限定で2回意見交換の場を設定した。その成果が今年出てきた。協議会の女性役員の割合が増えたところもいくつかあるし、さらには女性が色々な提言をして自ら活動を展開してくれている地域も増えたので、そういう意味では市のテーブルの設定の仕方、情報交換の場の設定の仕方次第で様々な成果が得られると思っているので、このあたりをこれから考えてもらえればと思う。恐らく会長の集まりというのはいくつかあると思うが、会長以外の実務者の方々の情報交換の場であったり、先ほど言った女性限定の意見交換の場所であったりする。今年度は若者との意見交換の場の設定をされ、40代50代の担い手の意見交換の場も用意するという形で頑張っている。市もちょっとしたことで地域活性化の手伝いができるのではないかという気がしているところだ。 他にいかがか。よろしいか。 それではこれで協議という場面は終了する。今後の予定について事務局からお願いしたい。 6 今後の予定
事務局	今回意見をいただいた内容について、座長と事務局とで協議の上まとめをさせていただく。最後に確認をしていただきたいと考えている。よろしくお願いいたします。

会議摘録	
発言者	発言の要旨
座長	後、12月14日土曜日には、昨年に引き続き福知山市、朝来市、丹波市の3市連携による交流発表会、まちづくり互近助サミットと題して開催を予定している。3市の各自治協議会を通じた学びの場と楽しい意見交換、交流の場として開催するので、各自治協議会の皆さまには案内をしているが、委員の皆さまにも案内をするので参加していただける方があればよろしくお願いいたします。 先ほど当事者意識の話で言ったように、できるだけ多くの地域の方にこういう機会に参加してもらって、担い手が出てくるような機会に使ってほしいと思うので役員以外の方々にもぜひとも参加を呼びかけていただきたい。 それでは、自治協議会のあり方懇話会はこれで終了とさせていただきます。最後に職務代理から挨拶をいただきたい。
職務代理者	7 閉 会 閉会挨拶 皆さまお疲れ様でした。会を重ねるごとに具体的かつ熱心な意見をいただいたことにお礼を言いたい。 今日、欠席の委員からの意見にあったように、丹波市が目指す姿は「住み慣れた地域で住み続けていく」というビジョンを実現させるためには自治協議会の果たす役割は大きくなっていくと思う。特に、周辺部、市島地域、青垣地域、春日地域の大路地区、山南地域、こういう所においては先ほど私どもの自治振興会の委員から意見が出たがなかなか役員になり手がない。自治会長も人手不足で担い手が減少していく中で自治協議会がどううまくリーダーを養成していくかということも大事になってくようかと思っている。私は地域コミュニティ活動推進員と一緒に自治協議会の事務局をもっているが「事務局が虚しさだけ持ったらあかんよ」と、自治協議会はどうあるべきかを常に持ちながら、現役時代のような指揮命令ができる組織ではない組織が地域自治活動なので、役員になる人は大変だという話をしながらやっている。陰で本当によくやってくれているので私も喜んでいる。本当にそういう役割が重要になってくようかと思っている。 ある委員からは、少し突っ込んだ具体的な意見をもらった。この点に関しては座長と事務局とで何らかの形を示してもらえということだった。本当に様々なよい意見を出していただき感謝している。皆さんは熱心だと思う。私は資料を読むのが大変だ。もう2、3日早く届けてもらおうと時間もあると感じた。 ご苦労様でした。ありがとうございました。
まちづくり部長	10回にわたり、この自治協議会のあり方懇話会を開催させていただき、各委員には熱心な議論をいただいた。久座長、また足立職務代理者に導かれて皆さまから本当によい意見をいただいた。自治協議会に関しては、自治基本条例の中に位置付けし、それ以前にこの自治協議会を発足してこれまできたが、より具体的な活動がなかなか見えにくかった中で、あり方懇話会のまとめをしていただく中で皆さまよい意見をいただけたと思っている。今日は最終回ということになるかと思っている。後は座長、職務代理者、事務局の方でさせていただいて皆さま

会議摘録	
発言者	発言の要旨
	ま方に意見をいただく機会を持って最終のまとめとさせていただきたいと思っている。自治協議会も地域の中で地域自治を考えていただく団体として担っていただくのだが、一方で行政もこれまでのあり方ではなく地域の一員として関わるような仕組みになっていくことが必要だと感じた。本当に2年間の長期にわたり意見をいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひしたいということを申し上げて懇話会のお礼とさせていただきたい。ありがとうございました。